令和８年度「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組

「品川区学力定着度調査」の趣旨

(1)学習指導要領に示された教科の目標や内容の実現状況を把握し、教育課程や指導方法等に関わる区の課題を明確にすることで、その充実・改善を図るとともに、区の教育施策に生かす。

(2)各学校は、教育課程や指導方法に関わる自校の課題・解決策を明確にするとともに、調査結果を経年で把握することで、児童・生徒一人一人の学力の向上を図る。

(3)区民に対し、区立学校における児童・生徒の学力等の状況について、広く理解を求める。

1　調 査 日　令和８年４月１４日（火）

2　調査対象　品川区立学校　第２～９学年の全児童・生徒

3　調査内容

教科に関する調査

→　調査の趣旨に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成

<第２・３学年>　国語、算数
<第４～５学年>　国語、社会、算数、理科
<第　６　学年>　国語、社会、算数、理科、英語
<第７～９学年>　国語、社会、数学、理科、英語

豊葉の杜学園

結果の分析と課題　令和８年度

＜国　語＞

第２学年の定着度調査結果

	はなしをききとる	かん字をよむ	かん字をかく	ことばの学しゅう	ものがたりをよみとる	せつめい文をよみとる	おくりものについてはなしあう	文しょうをかく
目標値	78.3	90.0	90.0	82.0	56.7	70.0	45.0	63.3
校内結果	85.8	94.8	94.3	89.6	61.8	79.9	50.5	71.2

第３学年の定着度調査結果

	話を聞きとる	かん字を読む	かん字を書く	ことばの学しゅう	ものがたりを読みとる	せつ明文を読みとる	さいもんのできごとについてはなす	文しょうを書く
目標値	75.0	90.0	73.3	70.0	70.0	70.0	45.0	68.3
校内結果	87.5	94.8	91.7	80.6	82.3	86.5	49.5	76.0

第４学年の定着度調査結果

	話し合いの内ようを聞き取る	漢字を読む	漢字を書く	言葉の学習	物語の内ようを読み取る	せつ明文の内ようを読み取る	文章について話し合う	文章を書く
目標値	81.7	90.0	73.3	63.8	71.7	61.7	47.5	61.3
校内結果	86.3	95.5	79.7	75.3	79.7	66.0	49.0	55.9

第５学年の定着度調査結果

	話し合いの内ようを聞き取る	漢字を読む	漢字を書く	言葉の学習	物語の内ようを読み取る	説明文の内容を読み取る	調べたことをもとに文章を書く	文章を書く
目標値	73.3	86.7	68.3	67.0	63.3	53.3	42.5	60.0
校内結果	81.4	97.5	85.3	72.6	73.7	58.2	54.7	61.3

第６学年の定着度調査結果

	話し合いの内容を聞き取る	漢字を読む	漢字を書く	言葉の学習	物語の内容を読み取る	説明文の内容を読み取る	報告する文章を書く	文章を書く
目標値	68.3	86.7	58.3	57.0	65.0	55.0	55.0	48.8
校内結果	73.8	89.0	59.6	68.9	76.2	62.4	64.9	50.0

第７学年の定着度調査結果

	インタビューの内容を聞き取る	漢字を読む	漢字を書く	文法・語句に関する事項	説明的な文章の内容を読み取る	文学的な文章の内容を読み取る	保健だよりを書く	文章を書く
目標値	65.0	83.3	70.0	55.0	53.3	63.3	55.0	52.5
校内結果	72.9	89.5	71.9	60.5	55.2	72.6	62.4	59.1

第８学年の定着度調査結果

	話し合いの内容を聞き取る	漢字を読む	漢字を書く	文法・語句に関する事項	説明的な文章の内容を読み取る	文学的な文章の内容を読み取る	体験したことを文章に書く	文章を書く
目標値	63.3	76.7	55.0	50.0	56.7	63.3	48.3	60.0
校内結果	71.6	89.3	58.0	48.0	69.7	75.8	62.0	64.9

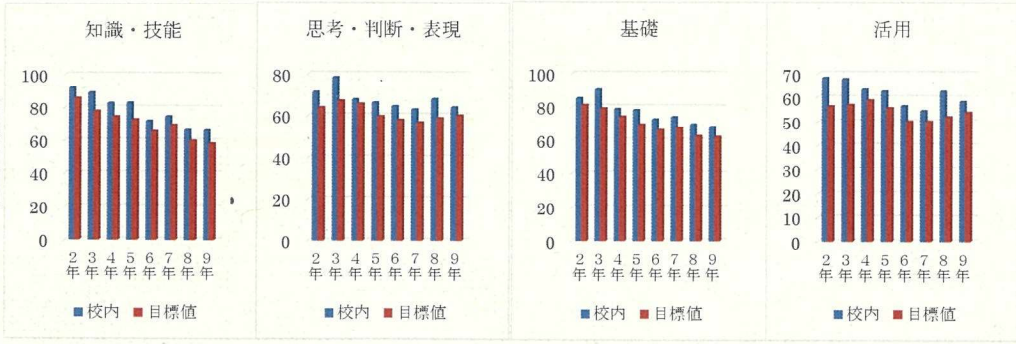
第９学年の定着度調査結果

	発表の内容を聞き取る	漢字を読む	漢字を書く	文法・語句に関する事項	説明的な文章の内容を読み取る	文学的な文章の内容を読み取る	紹介する文章を書く	文章を書く
目標値	66.7	60.0	51.7	61.7	55.0	68.3	53.3	58.8
校内結果	71.2	80.2	47.1	70.4	60.9	74.2	60.9	57.0

＊目標値とは、学習指導要領に示された内容について学んだ場合、設問ごとに正答できることを期待した児童・生徒の割合です。

結果概要

「話の聞き取り」については、全学年で目標値を上回りました。「文章の読解」に関しても、物語文（文学的な文章）・説明文（説明的な文章）ともに目標値を上回りました。内容を読み解く力は全学年において身に付いてきていると言えます。しかし、説明文において情報の取捨選択や複数の情報を関連付けることに関する問題では、もう少し改善を図れると考えます。ここ数年で課題となっている「文章を書く」については、改善の傾向はみられますが、目標値を下回る学年もあるため、継続して改善を図っていきます。



「３つの資質・能力」「基礎・活用」の結果からの分析

各学年の観点別正答率から、「知識・技能」においては、全学年が６割以上を達成できていると同時に、全ての学年が目標値を上回る結果となっています。「思考・判断・表現」においても、全学年が目標値を上回っています。「基礎」よりも「活用」において、多くの学年で目標値を大きく超え、学んだことを効果的に活用できています。

ほとんどの学年において、目標値を上回ることができたという結果を受け止め、今の教育活動を継続して進めていきます。しかしながら、各学年および各項目ごとに細かく見ていくと、目標値との差がわずかなところや、下回っている所があることも事実です。学校全体としての取り組みはもちろん、それぞれの課題に対して焦点をあてた指導が必要だと考えます。

全体として、「３つの資質・能力」をさらに伸ばしていけるよう、今年度は、基礎の力を確実に定着させ、書く活動を通して、活用力を向上させていきます。

課題の原因と身に付けさせたい力

本校の課題は、「文章を書く」「情報を関連付けて考える」の２点です。原因としては、タブレット端末の普及による書く機会の減少と読書時間の減少が挙げられます。デジタル化が進む時代においても、考えを書いて伝える力や、物事を結び付けて考える力は必要になるため、総合的な「考えて書く力」を育成します。

課題解決のための具体的な方策

国語の授業においては、指定された条件を満たす文章を書く機会を通して、明確な判断基準で児童・生徒自身が評価できるようにします。条件を満たすというスモールステップをクリアすることで、書くことへの苦手意識を軽減させ、書く力を育成します。

≪前期課程≫

・第１、２学年では短文を書く機会を増やし、書くことへの抵抗感を少なくすること。
・第３、４学年では継続的に日記や短作文を書くことで、文章を書くことに慣れるようにすること。
・第５、６学年では漢字テストでの習熟を深めるため、小テストでの繰り返し学習を行うこと。また、単元の言語活動で紙に書く活動を増やすこと。

≪後期課程≫

第７～９学年では、話題を意識しながら、根拠を明確にして書くことを重点とし、どの学年でも相手意識と目的意識を明確にして書く活動に取り組める単元計画を立てていきます。そのために、発達段階に沿って以下の実践に取り組みます。

・語彙を増やすとともに基礎基本の学力の定着を図ること。
・主題や問題を正しく理解し、読み取ったことや自分の考えを、指定された時間内で書くこと。
・自分の考えをまとめる力を高めるために、授業の振り返りを継続的に書くこと。
・構成や書き方など指定の条件に着目してお互いの文章を読み、改善点を伝え合うこと。
・目的や意図に応じて構成や表現を工夫すること。

また、全学年読書の機会を多く設定できるよう、時間の工夫を行います。

結果の分析と課題　令和８年度

＜社　会＞

第４学年の定着度調査結果

	市の様子	工場の仕事	買い物調べ	店ではたらく人	安全なくらし―火事	安全なくらし―事故や事件	市の様子の移り変わり	くらしの移り変わり
目標値	71.0	70.0	71.7	57.5	61.3	63.8	48.3	75.0
校内結果	79.2	79.4	77.7	68.6	72.9	69.1	47.4	68.0

第５学年の定着度調査結果

	都道府県の様子	くらしをささえる水	ごみのしょりと利用	自然災害からくらしを守る―地震	先人の働き	特色ある地域の様子
目標値	64.2	63.0	66.0	73.3	51.7	70.0
校内結果	76.5	74.9	72.0	73.3	64.2	83.5

第６学年の定着度調査結果

	世界の中の国土	日本の国土と人々のくらし	日本の農業	日本の水産業	日本の食料生産	自動車をつくる工業	日本の工業生産	情報を生かした産業	自然環境と国民生活
目標値	68.3	70.0	75	60	61.3	75	50	76.3	63.3
校内結果	75.9	80.5	86.2	55.9	66.0	83.7	59.6	72.1	56.4

第７学年の定着度調査結果

	日本国憲法	日本の政治	縄文時代～平安時代	鎌倉時代、室町時代	安土桃山時代、江戸時代	明治時代～昭和時代	世界の中の日本
目標値	63.3	50.0	53.0	45.0	53.0	49.2	60.0
校内結果	71.2	53.0	54.9	41.7	54.7	45.0	60.0

第８学年の定着度調査結果

	世界の姿	日本の姿	世界各地の人々の生活と環境	世界の諸地域	縄文時代～古墳時代	飛鳥時代～平安時代	中世の日本
目標値	51.7	51.7	56.7	54.2	46.3	51.3	45.7
校内結果	49.9	58.3	63.2	57.0	37.4	55.2	52.4

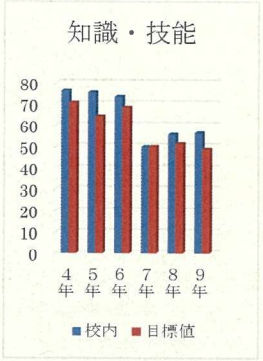
第９学年の定着度調査結果

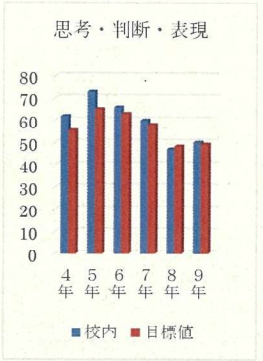
	日本の地域的特色と地域区分	日本の諸地域	地域調査の手法	ヨーロッパ人との出会いと全国統一	江戸時代	明治時代
目標値	49.2	46.4	42.5	50.0	42.5	57.5
校内結果	52.6	47.7	40.2	52.3	49.8	71.1

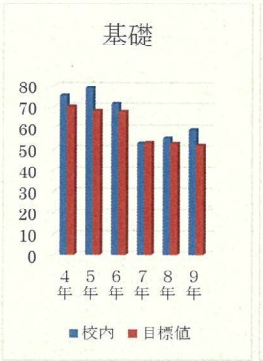
結果概要

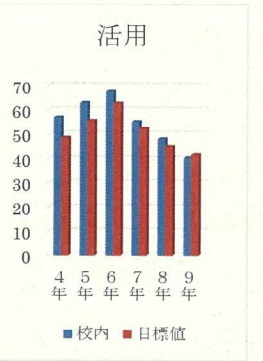
令和７年度の課題であった『基礎』の定着においては、前期課程の第４、５学年、後期課程の第８，９学年で目標値、区、全国の平均正答率の全てを上回りました。しかし、前期課程の第６学年では区平均を下回り、後期課程の第７学年では、目標値・区平均・全国平均を下回る結果となりました。

今年度、『活用』の定着にも課題が見られました。前期課程の第５、６学年では区平均を下回りました。また、後期課程の第７学年は目標値と区平均、第９学年は目標値を下回る結果となりました。









「三つの資質・能力」「基礎・活用」の結果からの分析

各学年の観点別正答率です。第４、５、６、９学年が目標値を全ての観点で上回りました。第７学年は「思考力・判断力・表現力等」、第８学年は「知識・技能」の観点で目標値を上回りました。

各学年の基礎・活用の観点からみた正答率では、第４、５、６、８学年が「基礎」と「活用」の観点で目標値を上回りました。第９学年では、「基礎」の観点が目標値を上回りました。

今年度は昨年度に引き続き「基礎」を定着させるとともに、「活用」の定着に努めていく必要があります。

課題の原因と身に付けさせたい力

本校の課題は「活用」力の定着です。原因には次のようなものが考えられます。

- 複数の資料を関連付けて、資料を読み取る力が低い。
- 小テストへの意欲が低い。（事前に復習をしてこない児童・生徒が多い。）
- 社会科を家庭学習で取り組む習慣がない。（定期的に既習事項を復習する機会が少ない。）
- 学んだことをアウトプットする経験が不足している。（白地図やレポート、社会科新聞などにまとめる活動）

そこで、問題を解決するために、必要な情報を読み取り、それらの情報を関連付けて考える力を身に付けさせます。

課題解決のための具体的な方策

社会科として以下の力を身に付けさせていきます。

《前期課程》

- 必要な知識（用語）を明確化して小テストや授業の前に前時の振り返りを実施し、確実な定着を図る。〈知識の定着〉
- 資料の読み取り方を確認するとともに、読み取る時間を十分に確保し、必要な情報を読み取る力を身に付けさせること。また、話合い活動等で、正確に読み取ることや読み取ったことを表現する力を身に付けさせること。〈知識の定着・活用〉
- 知識を関連付けられるよう、重要語句を用いてまとめを書き、活用する機会をつくること。〈思考・判断・表現、活用〉

《後期課程》

- 既習内容を振り返る機会を設ける。その後小テストを実施し、定着度合いを測ること。〈知識の定着・活用〉
- 地形図や雨温図、統計資料の読み取りなどの地理的技能を身に付けるため、地図帳や地理情報との関連から考察したり理解したりする機会をつくること。〈知識の定着・活用〉
- 資料活用の際、話合い活動や個人で考察する時間を設け、必要な情報を正確に読み取り、表現する力を身に付けさせること。〈思考・判断・表現〉

結果の分析と課題　令和８年度

＜算　数・数　学＞

第２学年の定着度調査結果

	１２０までのかず	たしざん	ひきざん	３つのかずのけいさん	かたち	ながさ・かさ	とけい	えをつかったグラフ
目標値	87.5	63.1	77.1	85.0	63.3	75.5	80.0	87.5
校内結果	91.3	79.0	85.0	90.9	72.6	95.8	89.6	95.8

第３学年の定着度調査結果

	10000までの数	たし算・ひき算	かけ算	三角形と四角形	はこの形	長さ・かさ	時こくと時間	ひょうやグラフ
目標値	68.0	77.5	79.0	77.5	80.0	72.0	75.0	75.0
校内結果	76.9	82.3	91.0	87.0	89.6	81.9	85.9	87.0

第４学年の定着度調査結果

	大きい数・小数・分数	たし算・ひき算	かけ算	わり算	□を使った式	円と球・三角形	長さ・重さ	時こくと時間	表とぼうグラフ
目標値	75.0	77.5	65.0	66.3	73.3	63.3	78.3	78.3	67.5
校内結果	75.1	83.5	72.9	73.2	83.2	67.7	84.9	84.9	76.8

第５学年の定着度調査結果

	偶と奇・概数の求め方	わり算・計算のきまり	小数	分数	いろいろな形	面積	角の大きさ	変わり方調べ	割合と帯グラフについての割合	折れ線グラフと表
目標値	61.7	55.0	65.8	60.0	68.3	50.5	77.5	67.5	63.3	53.8
校内結果	72.3	63.2	74.7	73.7	61.8	54.7	88.9	80.5	74.7	58.9

第６学年の定着度調査結果

	整数の仲間分け	分数と小数	小数の計算	分数の計算	多角形と円・合同	面積	立体と体積	比例・反比例の意味	平均・単位量あたりの大きさ	割合	円グラフや帯グラフ・平均
目標値	45.0	72.5	62.5	70.0	77.5	67.5	72.5	68.8	62.5	50.0	
校内結果	59.9	76.6	68.6	75.5	80.6	83.0	80.9	71.3	77.7	55.7	

第７学年の定着度調査結果

	小数・分数の計算	整数の性質	文字と式	面積と体積	平面図形	単位量あたりの大きさ	百分率	比と比例・反比例	平均・場合の数	データの活用	いろいろなグラフの読み取り
目標値	77.0	75.0	72.5	68.3	62.5	45.0	48.3	60.0	63.3	57.5	60.0
校内結果	79.9	77.5	83.9	72.6	68.8	53.6	47.6	63.2	68.3	60.7	66.4

第８学年の定着度調査結果

	正の数・負の数	文字式	１次方程式	比例・反比例	平面図形	空間図形	データの分布の傾向
目標値	76.3	45.0	65.0	48.3	59.0	56.3	50.0
校内結果	82.5	61.5	73.8	58.9	63.5	71.0	66.2

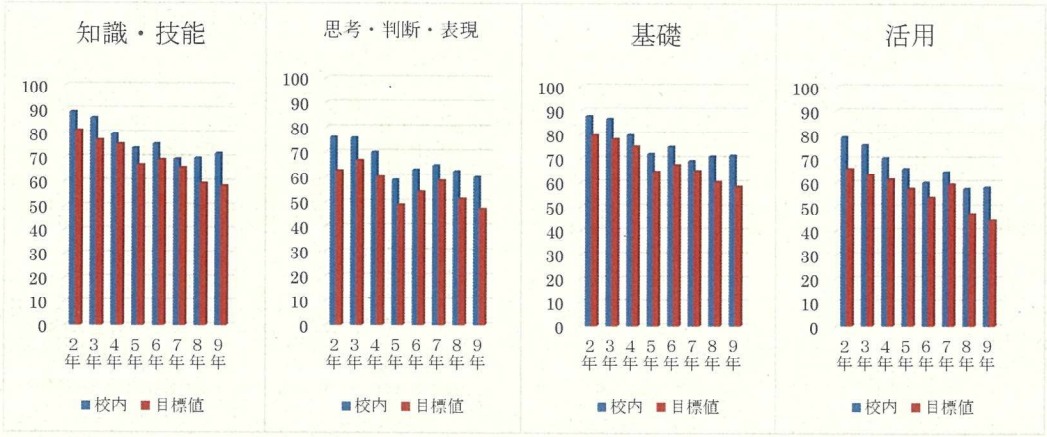
第９学年の定着度調査結果

	式の計算	連立方程式	１次関数	図形の性質	証明	確率	データの分布の傾向
目標値	55.0	53.0	55.6	68.3	37.5	60.0	45.0
校内結果	70.8	69.0	66.3	79.7	49.2	73.3	59.4

結果概要

令和７年度の課題であった算数・数学の「基礎的な能力」については、全学年で目標値や、全国の平均正答率を上回っています。多くの学年は、区の平均正答率を上回りましたが、一部の学年は区の平均正答率を下回る結果となりました。さらに「活用的な能力」も、４学年が区の平均正答率を上回ったこと以外は同様の結果となり、昨年度の成果指標を達成しきれていないことが見られます。

教科全体の正答率は、全学年、全国の平均正答率を上回る結果となりました。区の平均正答率も概ね上回っていますが、６、７学年だけは区の平均正答率を下回る結果となり、全体的な能力向上が見られる反面、前年度と同様の課題が見えてきました。



「３つの資質・能力」「基礎・活用」の結果からの分析

各学年の観点別正答率は「知識・技能」「思考・判断・表現」においては、前年度と比べて、全学年で目標値を上回る結果となりました。また、「基礎」と「活用」の観点においても、全学年が目標値を上回る結果となり、昨年度と比べると、着実に力がついていると見られます。

ただ、細かく見ると、４学年が「知識・技能」の区の平均正答率、６、７学年が「知識・技能」「思考・判断・表現」の区の平均正答率を下回っていることもあり、前年度に引き続き、前期課程の高学年では、算数の基礎的な能力の定着が課題となっています。

課題の原因と身に付けさせたい力

全体的に目標値を上回る結果となりましたが、引き続き「基礎的な能力」が本校の課題です。その原因は以下の通りです。

・分数や小数などの基礎計算が徹底されていないこと。
・新たな図形への対応が不十分であること。
・例えば、昨年度６学年「割合」に続き今年度７学年「百分率」が目標値を下回るなど、学年をまたいでつながりのある分野の数値が一部改善されていないこと。
・授業の様子として、問題文をきちんと読まず分かったつもりになり、板書内容や途中式などを十分にとらないこと。

現状の数値を維持するために、昨年度同様「基礎的な能力」を身に付けさせるべく基礎・基本的な内容を丁寧に教えることに重点をおきたいと考えます。

解決のための具体的な方策

「基礎的な能力」を身に付けさせるために、前期・後期課程共に、次の点を意識して指導します。

① 授業プリントや宿題を見直し、都度苦手とする分野の強化を図ります（特に計算分野）。
② 発達段階や習熟度に合わせて、ICTや模型など教具の工夫を行います。
③ 「既習分野を理解していないかもしれない」という前提で授業を行います。具体的には、必ず復習してから新しい分野に入ったり、折に触れて既習分野の内容を確認したりして、つながりを重視しながら両分野の定着を図ります。
④ 授業中に、しっかり考える時間や教え合いの時間を確保します。

結果の分析と課題　令和８年度

＜理　科＞

第４学年の定着度調査結果

	身近な自然観察	植物の育ち方	こん虫の育ち方	こん虫のからだのつくり	太陽と地面の様子	光の性質	風やゴムのはたらき	音の性質	電気の通り道	じしゃくのせいしつ	物の重さ
目標値	60.0	70.0	65.0	62.5	53.8	43.3	77.5	75.0	57.5	50.0	72.5
校内結果	59.5	78.7	66.0	77.3	64.4	48.1	85.1	84.0	73.2	61.9	73.2

第５学年の定着度調査結果

	1年間の植物の成長	1年間の動物の様子	天気の様子と気温	電気のはたらき	動物のからだのつくりと運動	月と星	物の体積と力	物の体積と温度	雨水のゆくえと地面の様子	水のすがた	自然の中の水	もののあたたまり方
目標値	60.0	50.0	47.5	50.0	50.0	73.3	50.0	61.7	77.5	60.0	33.3	75.0
校内結果	61.6	47.9	44.7	53.2	50.0	77.9	52.1	65.6	72.6	70.2	31.2	83.9

第６学年の定着度調査結果

	天気の変化	植物の発芽と成長	魚の誕生	花のつくりと実	流れる水の働き	人の誕生	ふりこのきまり	物のとけ方	電流の働き	顕微鏡の使い方
目標値	48.8	66.0	80.0	55.0	65.0	72.5	40.0	50.0	53.3	35.0
校内結果	57.2	70.0	73.4	58.5	68.4	70.7	38.3	50.7	51.4	46.8

第７学年の定着度調査結果

	物の燃え方	動物のからだのつくりとはたらき	植物のからだのつくりとはたらき	生物とかんきょう	月と太陽	大地のつくりと変化	てこのはたらき	水よう液の性質	電気の利用
目標値	48.3	46.0	50.0	53.3	60.0	61.7	45.0	41.7	55.0
校内結果	48.8	38.4	45.4	57.9	56.4	56.2	49.8	34.5	63.6

第８学年の定着度調査結果

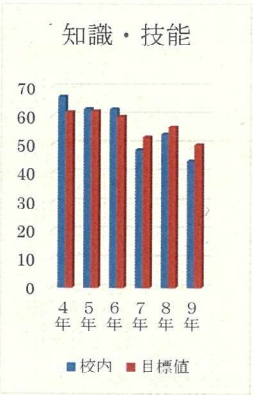
	植物の分類	動物の分類	身のまわりの物質とその性質	気体の性質	水溶液の性質	物質の状態変化	光の性質	音の性質	力の性質	火山	地層	地震
目標値	58.0	58.3	65.0	58.3	35.0	55.0	40.0	52.5	35.0	55.0	40.0	43.3
校内結果	54.7	68.3	70.3	64.3	34.5	69.6	37.4	62.9	33.9	57.0	46.9	59.4

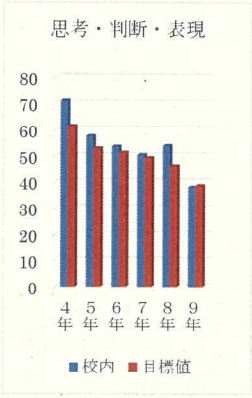
第９学年の定着度調査結果

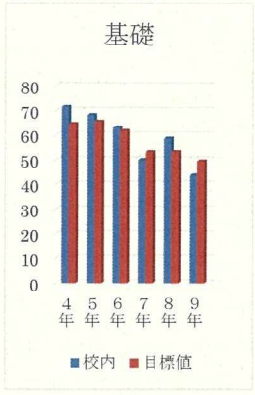
	物質の成り立ち	化学変化	化学変化と物質の質量	生物と細胞	植物のからだのつくりとはたらき	動物のからだのつくりとはたらき	気象の観測	前線の通過と天気の変化	日本の気象	電流の性質	電流と磁界	電流の正体
目標値	46.7	55.0	40.0	53.3	47.5	45.0	40.0	50.0	37.5	33.3	38.3	57.5
校内結果	38.6	43.4	33.5	45.4	56.8	44.9	32.8	52.6	30.1	36.8	36.1	54.1

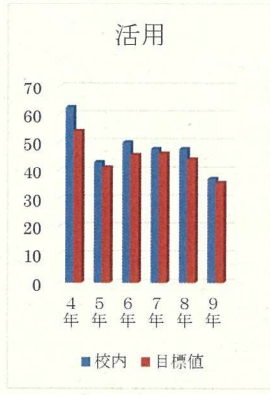
結果概要

令和７年度の課題であった『知識・技能の定着』が課題です。７～９年の活用は目標値に対して上回っています。４，８年はすべての領域で基礎・活用が目標値を上回っています。









「３つの資質・能力」「基礎・活用」の結果からの分析

各学年の観点別正答率です。「３つの資質・能力」について第４学年、第５学年、第６学年ともに、目標値を達成しています。知識・技能は７～９学年は目標値を下回っていますが、思考・判断・表現は、目標値を上回っています。「基礎・活用」については、第８学年においては、基礎・活用が、両方の領域において目標値を上回っています。７学年と９学年は、活用で目標値を上回っています。特に第８学年は基礎的な法則や性質をもとに、具体的な事象に適用させて考えを深める問いの多くを正答することができています。

課題の原因と身に付けさせたい力

本校の課題は昨年度に引き続き「知識・技能」です。

５学年では身近な地球分野、６学年では生命分野、物質・エネルギー分野、７学年では生命分野、８学年では生命分野とエネルギー分野、９学年では特に粒子分野、地球分野において課題が見られました。いずれの分野も基本的な知識を定着させることに課題が見られます。特に第８学年では、密度について、学習した内容を活用して思考を深める問いができていませんでした。基礎基本を確実に定着させ、科学的な思考を深め、探究する力を身に付けさせたいです。

課題解決のための具体的な方策

前期課程において、メダカの飼育や結露の現象など、自然体験や日常生活で見られる現象を学習と関連させていくことで理解が深まると考えられます。また、電磁石やふりこの学習など、観察・実験の充実をはかり、結果から思考を深める習慣を意識していきたいです。

後期課程においては、全般的に観察・実験の充実を図りたいと考えます。また、重要な法則や性質は繰り返し復習し、定着させていきたいです。思考を深める問いに苦手意識が見られるため、思考を促す場面を積極的に取り入れ、話し合ったり、調べたり、記述にまとめるなど、多面的な方法で思考を深める経験を続けさせたいです。

結果の分析と課題　令和８年度

＜英　語＞

第６学年の定着度調査結果

	単語の意味理解（聞く）	アルファベットの読み（聞く）	アルファベットの書き（聞く）	日常会話の理解（聞く）	会話全体の理解（聞く）	英文の読み取り（聞く）	単語の読み	英文の完成	英　作　文
目標値	85.0	72.5	73.3	79.2	75.8	80.0	81.7	76.0	73.8
校内結果	90.9	71.5	80.9	83.7	82.6	90.1	89.0	75.5	72.9

第７学年の定着度調査結果

	単語の意味理解（聞く）	アルファベットの読み（聞く）	アルファベットの書き（聞く）	日常会話の理解（聞く）	会話全体の理解（聞く）	英文の読み取り（聞く）	単語の読み	英文の完成	英　作　文
目標値	75.0	85.0	76.3	77.0	70.0	80.0	85.0	71.4	60.0
校内結果	87.7	89.5	88.6	85.4	81.1	84.3	88.9	77.2	65.1

第８学年の定着度調査結果

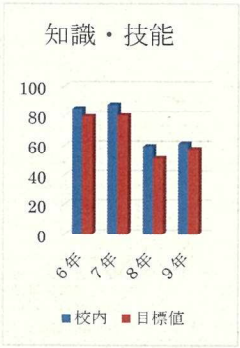
	リスニング（内容理解）	リスニング（対話文応答）	リスニング（様々な英文の聞き取り）	語形・語法の知識・理解	語彙の知識・理解	さまざまな英文の読み取り	長文の読み取り	単語の並べ替えによる英作文	場面に応じて書く英作文	情報に基づいて書く英　作　文	３文以上の英作文
目標値	66.7	47.5	62.5	48.3	65.0	55.0	43.8	60.0	45.0	31.7	41.7
校内結果	69.2	59.3	66.4	57.3	81.5	66.1	51.2	62.6	49.3	42.4	63.4

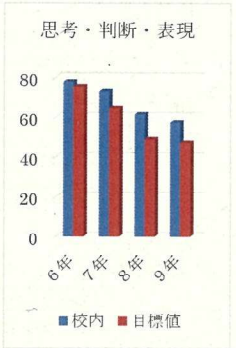
第９学年の定着度調査結果

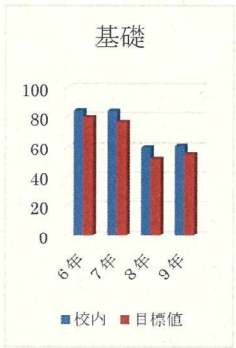
	リスニング（内容理解）	リスニング（対話文応答）	リスニング（様々な英文の聞き取り）	語形・語法の知識・理解	語彙の知識・理解	さまざまな英文の読み取り	長文の読み取り	単語の並べ替えによる英　作　文	場面に応じて書く英作文	３文以上の英　作　文
目標値	68.3	50.0	55.0	61.7	65.0	50.0	42.5	50.0	30.0	45.0
校内結果	68.7	58.1	61.3	71.4	78.6	57.1	54.5	53.9	24.4	65.7

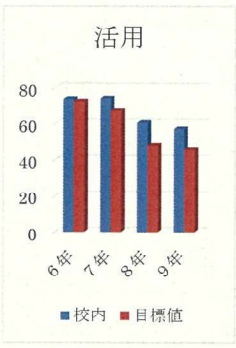
結果概要

第6学年では、「アルファベットの読み（聞く）」、「英文の完成」、「英作文」の問題の正答率が、目標値を下回りました。後期課程では、第７学年と第８学年は、全ての項目で目標値を達成する結果となりました。第９学年では、「場面に応じて書く英作文」の項目が目標値を下回る結果となりました。日頃の授業より「場面に応じて書く英作文」の指導を継続して行い、改善を図ります。一方で、全体的な「知識・技能」「思考・判断・表現」「基礎」「活用」においては、全学年目標値を達成する結果となりました。









「３つの資質・能力」「基礎・活用」の結果からの分析

「知識・技能」「思考・判断・表現」「基礎・活用」において、全学年、目標値を上回りました。特に、第６学年では、「アルファベットの読み（聞く）」を除き、「３つの資質・能力」において、目標値を大きく上回る結果となりました。第７学年は、「資質・能力」「基礎・活用」において、区の平均値と同じ結果となりましたが、目標値や全国の数値は上回りました。特に、「単語の意味理解（聞く）」や「アルファベットの読み（聞く）」の「知識・技能」の観点が高い数値となりました。第８学年の「３つの資質・能力」においては、目標値や全国の平均の数値は上回る結果となりましたが、区の平均値は下回りました。しかし、「思考・判断・表現」の観点においては、「場面に応じて書くこと」や「３文以上の英作文」の数値が、目標値、区内や全国の正答率を大きく上回る結果となり、「書くこと」の観点は高い数値となりました。全ての「３つの資質・能力」「基礎・活用」において、目標値や区・全国の数値を大きく上回る結果となりました。

課題の原因と身に付けさせたい力

≪前期課程≫

前期課程の課題は、例年「アルファベットの読み（聞く）」の問題で、活字で書かれた文字を識別し、その読み方を身に付けることが課題になっています。原因としては、基礎学力の定着の不十分さが、日常会話や会話理解の困難さにつながっていることが判明しました。

今後、フォニックスの学習を通し、アルファベットの音と文字が識別できる力を身に付けさせる必要性があると考えます。

≪後期課程≫

７学年や８学年は、どの項目も目標値を大きく上回っています。さらなる飛躍を目指すために、今後「リスニング」の「内容理解」や「対話文応答」、「様々な英文の聞き取り」の力を向上させ、学力の底上げを試みます。具体的には、「日常生活に関する話題を聞き、状況などを推測して聞く力」を伸ばしていきます。そのため、日頃の授業より、目的や場面設定などの背景知識を活用しながら聞くことの指導、ディクテーションなどの活動を取り入れ、リスニングの能力を身に付けていきます。

９学年の課題は、「場面に応じて書く英作文」です。E-mailや手紙などの英文を読み、「対話相手に返信する活動」や「場面に応じた英文」を書く活動を取り入れ、場面に応じて書く力を身に付けていきます。

課題解決のための具体的な方策

≪前期課程≫

問題の内容別正答率では、「アルファベットの読み」「英文の完成」「英作文」が目標値を下回っていることを受け、授業内に大文字・小文字を活字体で書くことができるようにします。また、語順を意識しながら、音声で十分慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き表すことができるようにします。

≪後期課程≫

後期課程では、４技能５領域において、言語活動を行う際に「目的や場面、状況に応じた言語活動」を実施する必要性があります。具体的な方策として、英作文を実施する際、自分事として身近な話題を書く活動を増やし、アウトプットできる機会を多く設けるようにします。また、十分な語彙力を増やすことが「活用」能力を向上させるのに不可欠であると考えます。語彙を定着させるために、文脈の中で、語彙指導を繰り返し行い、スパイラル学習を行います。また、小テストも定期的に実施し粘り強く指導にあたります。また、テストやワークなどを十分に活用しインプット量を増やし、生徒自身の考えや思いを発信するアウトプット活動をバランスよく取り入れた活動も実践していきます。